

Title	三田史学会大会；三田史学会例会；国史談話会；東洋史談話会； 昭和四十一年度史学科卒業論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1967
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.39, No.4 (1967. 3) ,p.143(587)- 147(591)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19670300-0143">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19670300-0143</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

遺構を残している。八代毛利義元創設の有備館は荒廃しているが、旧時の民具等が保存されている。騎馬戦の訓練に用いられた明倫館水練池。この周囲、昔は一面の蓮田であつたという。

最後の見学場所である熊谷美術館に着く。ここは、明和五年（一七六八）に初代熊谷五右衛門芳充が建築した土蔵の内部を改造したもので地方美術館として特色を持つている。日本最古のピアン、古萩陶器、茶道具など貴重なものが多く展観されている。

萩市には歴史的に貴重かつ興味深いものがとても多く、又、家並みも昔そのままを伝えており、一日位ではとても見きれない程であるが、我々の見学旅行は一先ずここで終わり東萩駅で解散した。

（田中美香子記）

学会報告

記録映写

◆中近東の旅から

終了後、西校舎学生食堂ホールに於て懇親会が開かれた。

竹田 竜児氏

### 三田史学会例会

昭和四十二年二月二日

昭和四十一年度卒業論文発表会

於三田一二一番教室（国史）

於三田一〇三番教室（東洋史）

於三田五三一番教室（西洋史）

卒業生送別会

於三田西校舎学生食堂

### 国史談話会

昭和四十一年十二月十一日

都内見学旅行（円融寺・五島美術館・上野毛古墳・亀甲山古墳・九品仏）

### 東洋史談話会

昭和四十一年十二月十六日 於三田一一一番教室

○学術講演（言語文化研究所と共催）  
香港の水上生活者―蛋民―

可見 弘明氏

### 三田史学会大会

昭和四十一年十月十五日

於慶応義塾大学三田西校舎五一九番教室

学術講演

◆ヴェルフリンとパノフスキー

―システイナー―礼拝堂天井画の解釈をめぐって―

高橋 巖氏

野口 義麿氏

今宮 新氏

◆縄文土器にみられる蛇身装飾について

◆時代と歴史観

なお講演終了後、同氏が現地で蒐集された民族資料を展示供覧した。

昭和四十一年十二月十九・二十日

見学旅行(駿府城址・登呂遺跡・東照宮他)

### 西洋史学会例会

昭和四十一年五月四日

於三田三二九番教室

フランシスコ会における党派対立の原因について

坂口 昂吉氏

昭和四十一年五月十八日

於三田第一会議室

第一次大戦におけるドイツの戦争目的—F・フィッシャーの説をめぐって—  
米田 治氏

昭和四十一年六月十五日

於三田西校舎会議室

一八世紀の *Parlementaires* と *Constitutional*—Paris の *Parlementaires* を中心として—  
宮崎 洋氏

昭和四十一年十月十二日

於三田第一会議室

初期レーニン主義の成立について  
本郷広太郎氏  
マグナ・カルタ再考  
森岡敬一郎氏

昭和四十一年十二月七日

於三田第一会議室

十三世紀アラゴンにおける王と貴族について  
岩谷十二郎氏

### 昭和四十一年度史学科卒業論文題目

国史学科

東洋史学科

五十嵐慶子 猿楽における二、三の問題  
佐藤フサ子 寛永十八年から明暦元年までの糸割符制—日蘭貿易を中心として—

犬塚 久子 寛政異学の禁—寛政改革における位置—

井上百合子 後白河法皇の院政—治承年間の政情を中心として—

上田 正子 竜安寺石庭の研究

梅沢 園子 明治初期のキリシタン書 プティジャン版の書誌学的研究

大勝 弘子 土佐藩の大政奉還運動について

小川 静子 関東に於ける弥生文化の葬制

加藤 拡子 永力丸漂流事件の研究

菊池 泰子 平田篤胤の思想に於ける実践性の一検討

栗栖 克子 長州藩と英国との提携

白木 倭子 中世芸能に関する一考察

千葉 靖子 自由民権運動と婦人解放の課題

寺田 正節 坂本竜馬と薩長連合

光谷 純子 三橋会所の一考察

柳沢富紀子 駐日英公使の対立—四国代表撰海進出を中心に—

山口 晴代 木曾義仲論

山田 昭典 横井小楠の基礎的研究—その開明的実学思想の一分

析—

牧田 位子 義和団事変—義和団と清朝との関係—

遠藤 博通 明末李自成の乱雑考

大橋 範子 鄭和の航海における船に関して

白田 雅之 カビール―十五世紀インドの改革宗教育家―

丸山 相子 中世イスラムにおける市場と同業組合に関して

水谷 任子 支那に於ける牙人(牙行)について―唐宋を中心に  
考察―

永山由利子 唐代ソグド商人の活動

根岸 禧子 古代アラブの詩人とベドウィンの生活を主眼とした  
ジャーヒリーヤ時代

龍原 武嗣 古代中国における犀・兕に関する考察―山海経五蔵  
山経を中心にして―

### 西洋史学科

阿井 真咲 二月革命のボルシェヴィズム

安東真由子 マキャベリズムの一面について―そのメソッドとス  
タイル―

新井 都 アメリカ南部のセクショナリズムの発展―奴隷問題  
中心に―

大藤 裕子 フェビアン社会主義とその労働党への影響

遠藤 典子 イギリスに於ける賦役の金納化

煙石 順子 デイズレイリーの帝国主義政策

藤 幸子 コリングウッドに於る歴史主義の成立

古橋 早苗 一九二三年独共産党の革命計画とその敗北

半田 絃子 グラッドストーンのアイルランド政策にみられるウ

イッグ的傾向について

長谷川厚子 レヴェラーズの自由の概念―パトニ討論を中心とし  
て―

日比 秀子 グラッドストーンとヨーロッパ・コンサート―ベルリ  
ン条約の遂行をめぐる―

平田 淑子 テューダー朝に於る第一次エンクロジアに伴うイン  
グランドの廃村

本間 直子 トライチュケに於るドイツの統一の理念

市川 謙一 産業革命における児童雇用

市川 幹子 三十年戦争に於けるリシュリューの外交政策

井上 卓也 ローマ帝国に於けるミトラ教―特にその興隆過程を  
中心に―

石川 知 ドイツ革命運動史

金指 梨花 メスタについて―カトリック両王時代を中心に―

嘉藤 秋子 フィレンツェにおける政治思想の発達とマキャベリ

加藤 操 イギリス市民革命期の社会思想―ディガー運動とG  
ウィンスタンリー―

河野能婦子 アイルランド・カトリック同盟に関する一考察

小坂 久恵 ローマ中小農民層の没落原因

倉持 和子 トマス・モアのユートピアについて

楠目 倅 十二・十三世紀に於る教育学科目の内容の変化につ  
いて

前田 翼 カプリヴィの新航路政策について―特に通商条約と

軍事法を中心として―

間瀬 恭子 中世カタリ派の西欧社会に於る変質過程

森 淳子 英国に於ける社会主義出現前の労働問題

六車 節子 ジェントリ層の勃興過程に対する一考察

村田佳代子 新経済政策(NEP)に至るまでの時代的背景―農業問題を中心として―

長坂 宏子 南アフリカにおけるセシル・ローズの植民地経営

古賀まな子 イスラエルに於けるキブツの発生

中原 公子 セポイの反乱と総督キャニング

中島由起子 ネヴィル・チエンバレンの対独宥和政策

根本 恭子 フロンドの乱―特に高等法院のフロンドについて―

仁科 静夫 マックス・ウェバーの政治的志向―特にドイツの東部農業問題との関連において―

野田千恵子 二十世紀初めの北部ナイジェリアに於ける間接統治の進展

野村 京子 T・V・A特にその Grass-Roots Democracy の理念をめぐって

小河 正義 レーム大尉肅清の真相

岡 良子 植民地ヴァージニアに於ける「ベーコンの反乱」考

大井 素子 ミュンヘン協定の不可避性―その成立過程―

大矢 峰子 一三八一年イギリス農民戦争の原因について―イギリス封建体制の危機―

小田島宇多子 エリザベス時代に於るイギリス経済の躍進

島津ひかる 米西戦争とアメリカの外交

清水 園子 シュトレーゼマンについて―併合主義と第二次世界大戦―

塩見 栄子 チューダー朝ヒューマニズムとトーマス・エリオットの「為政論」

城地 安子 リチャード二世時代に関する一考察

城田 矩子 第一次選挙法改正法案成立をめぐる諸勢力

鈴木 英孝 イタリア・ルネッサンスの二重性―ペトラルカに於ける古典のとらえ方―

高田登代子 イギリス農村のブルジョア化過程についての考察―イギリス革命の意義―

高橋 紀子 古代ローマ帝国末期に於る精神文化(異教徒とキリスト教徒の教育問題)

高崎 洋子 スペイン市民戦争への過程―スペイン第二共和国の政治的動向―

武田 暁子 ビューリタニズムの勃興過程についての一考察―宗教運動を中心として―

武見 楳子 テューダー朝に於けるヨーマンの特殊性について

田中 利己 フランス絶対主義王制の確立過程―リシュリー政策と高等法院の乱勃発に関する一考察―

田中 保栄 インドに於けるイギリスの教育政策

豊田 敦子 セシル・ローズを中心とするイギリス植民地獲得政策

塚本 剛 中世叙任権闘争について

海野 幸子 アメリカのフロンティアについて―独立革命後の西部問題を中心として―

渡辺 和俊 一八六〇年期のシシリー人—自治派を中心として—  
 渡辺 吉夫 フランス絶対王制  
 矢島 光子 ヘレニック社会に於ける高等宗教の地位—トインビ  
 —史観による—  
 山県 昭子 第四十字軍への道—十字軍時代を迎えたビザンチン  
 帝国の外交政策を中心として—  
 近藤 正栄 アメリカ第七代大統領アンドリュー・ジャクソンと  
 第二合衆国銀行との斗いについて

執筆 者 紹 介

浅子勝二郎 慶応義塾大学文学部教授

陳 荆 和 香港中文大学高級講師

慶応義塾大学言語文化研究所

客員所員

森岡敬一郎 同 文学部教授

会田 倉吉 同 塾史編纂所主事

三木 雄介 同 大学院博士課程

中井 信彦 同 文学部教授

高橋 正彦 同 助手

鈴木 公雄 同 同